

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 2 部門第 4 区分  
 【発行日】平成 23 年 11 月 24 日 (2011.11.24)

【公開番号】特開 2010-23485 (P2010-23485A)  
 【公開日】平成 22 年 2 月 4 日 (2010.2.4)  
 【年通号数】公開・登録公報 2010-005  
 【出願番号】特願 2009-107913 (P2009-107913)  
 【国際特許分類】

B 2 9 C 65/32 (2006.01)

H 0 1 L 31/042 (2006.01)

【F I】

B 2 9 C 65/32

H 0 1 L 31/04 R

【手続補正書】  
 【提出日】平成 23 年 10 月 5 日 (2011.10.5)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ダイアフラムシートで上部真空領域と下部真空領域とに仕切られる真空室と、該下部真空領域内に設けられるモジュール積層体を載置する載置面および該載置面の裏面に相当する底面を有するプレートと、該プレートの下部に設けられる加熱手段とを備える太陽電池モジュールのラミネータであって、

該加熱手段による加熱が、誘導加熱であり、  
前記プレートの前記底面に接する領域に、空間が形成されることを特徴とする、太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 2】

前記空間が、真空となるように構成される、請求項 1 に記載の太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 3】

前記空間が、前記プレートの前記底面の周縁部に配設される支持部材により形成される、請求項 1 または 2 に記載の太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 4】

前記プレートが、熱伝導率の異なる少なくとも 2 種の金属の層構造からなる、請求項 1 から 3 のいずれかの項に記載の太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 5】

前記プレートが、前記底面側に位置する第 1 の金属層と、前記載置面側に位置する第 2 の金属層を有し、

前記第 1 の金属層は、鉄を含有してなり、前記第 2 の金属層は、アルミニウムまたは銅を含有してなることを特徴とする請求項 4 に記載の太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 6】

前記プレートが、取り外し可能に設けられる、請求項 1 から 5 のいずれかの項に記載の太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 7】

前記プレートは、前記底面が凹状である、請求項 1 から請求項 6 のいずれかに記載の太

陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 8】

前記プレートは、前記底面に前記加熱手段に向かって突出する凸部を有する、請求項 1 から請求項 6 のいずれかに記載の太陽電池モジュールのラミネータ。

【請求項 9】

ダイアフラムシートで上部真空領域と下部真空領域とに仕切られる真空室内に設けられるプレートに、モジュール積層体を載置し、真空室内を減圧する工程、および

該モジュール積層体を、プレート下部から誘導加熱により加熱する工程を包含する、太陽電池モジュールの製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

本発明は、ダイアフラムシートで上部真空領域と下部真空領域とに仕切られる真空室と、該下部真空領域内に設けられるモジュール積層体を載置する載置面および該載置面の裏面に相当する底面を有するプレートと、該プレートの下部に設けられる加熱手段とを備える太陽電池モジュールのラミネータを提供し、該加熱手段による加熱が、誘導加熱であり

、  
前記プレートの前記底面に接する領域に、空間が形成されることを特徴とする。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【補正の内容】